

## 第2章-1 古代インド

### 1. インダス文明

BC.2300 ~ 1800 頃

ドラヴィダ人(?)による都市文明

浴場・上下水道、焼き煉瓦の家屋、ただし宮殿・神殿なし  
青銅器、未解読の象形文字、印章

\_\_\_\_\_ (上流、パンジャブ地方)、\_\_\_\_\_ (下流、シンド地方)

### 2. アーリア人社会とバラモン教

BC.1500 頃 \_\_\_\_\_ 人 (インド=ヨーロッパ語族) がインダス上流域に侵入・定住  
中央アジアから**カイバル峠** (唯一のインド進入路) を経て

BC.1000 頃 鉄器使用開始、ガンジス川流域へ進出

※ \_\_\_\_\_ 教……もとは自然崇拜の宗教

賛歌集「\_\_\_\_\_」は、ガンジス進出以前の成立

その他の**ヴェーダ** (各種の聖典) も BC6 世紀頃までに編纂

次第に形式化→僧侶身分を頂点とする階級社会の形成

4 つの基本身分= \_\_\_\_\_ (種姓、“色”の意味)

- ①. \_\_\_\_\_ ……僧侶
- ②. \_\_\_\_\_ ……貴族・武士
- ③. \_\_\_\_\_ ……平民 (商人、農民、牧畜民)
- ④. \_\_\_\_\_ ……隷属民

これがさらに無数の \_\_\_\_\_ に分類 (出身地・言語・職業などによる)  
→ \_\_\_\_\_ 制度

⇕

※バラモン教の奥義= \_\_\_\_\_ 哲学 ……自然と人間との関係を考察。インド哲学の源泉

宇宙の本質= \_\_\_\_\_ ( ) vs 個々の生命= \_\_\_\_\_ ( )

この2つが本来は一体である ( \_\_\_\_\_ )、ということ悟れば  
“輪廻”から“解脱”できる、と説く。  
りんね げだつ

### 3. 新しい宗教の成立

BC.5 世紀

(1). \_\_\_\_\_ ……開祖 \_\_\_\_\_ (ブッダ、仏陀=悟りを開いた者)

シャカ族の王子だったため釈迦牟尼 (=シャカ族の聖者) とも呼ぶ

諸行無常を悟り、煩惱を捨て、八正道 (正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定) を実践  
→四苦八苦から自由になる (=解脱する、涅槃に入る)

四苦 (=生老病死)、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦

(2). \_\_\_\_\_ ……開祖 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

禁欲、苦行、徹底した不殺生

いずれも、バラモンの権威・形式主義を否定

### 4. 統一王朝

BC.6 世紀頃から都市国家が多数出現→ コーサラ国や**マガダ国**が優勢に

(1). \_\_\_\_\_ 朝 (317 ~ 180.BC 頃)

▶ 初代 \_\_\_\_\_ が、マガダ国のナンダ朝を滅ぼす。 首都 \_\_\_\_\_

▶ 最盛期 \_\_\_\_\_ 王 (268-232.BC) ……南端をのぞくほぼ全インド統一

{ \_\_\_\_\_、\_\_\_\_\_ ……仏法 ( \_\_\_\_\_ ) による政治精神を刻む  
 \_\_\_\_\_ etc.に仏教を布教  
 第3回 \_\_\_\_\_ ……パーリ語により仏教の経典を編纂

※インダス川上流北西部の勢力の変遷

\_\_\_\_\_ (ギリシア人) → \_\_\_\_\_ (東方遊牧民)

(2). \_\_\_\_\_ 朝 (AD.1c ~ 3c, イラン系) ……首都 \_\_\_\_\_ (現ペシャワール)  
大月氏国から独立、西北インド支配

▶ 最盛期 \_\_\_\_\_ 王 (130-170 頃) ……ガンジス中流域まで支配

{ \_\_\_\_\_ 美術……ギリシア彫刻の影響で仏像が作られる  
 第4回**仏典結集** ……サンスクリット語による編纂

◆このころ仏教の変質…… \_\_\_\_\_ の発生=万人救済の宗教へ  
ナーガールジュナ (竜樹) が大成 (空の思想)  
これが中国・朝鮮・日本へ伝来

⇕

従来の個人修行の仏教= \_\_\_\_\_ (「小乗仏教」は蔑称) →東南アジアへ

◆同じ頃、南インド…… \_\_\_\_\_ 朝 (BC.1c ~ AD.3c)  
ローマとの季節風貿易さかん

(3). \_\_\_\_\_ 朝 (320 ~ 550 頃) ……首都 \_\_\_\_\_

▶ 最盛期**チャンドラグプタ 2 世** ( \_\_\_\_\_、376-415) 東晋の僧 \_\_\_\_\_ がインドへ

{ インド古典文化の完成期  
 ・**グプタ様式** (純インド風の仏教美術)、**アジャンター**、**エローラの石窟寺院**  
 ・ \_\_\_\_\_ 文学  
 二大叙事詩「 \_\_\_\_\_ 」 「 \_\_\_\_\_ 」  
 宮廷詩人 \_\_\_\_\_ の戯曲「 \_\_\_\_\_ 」  
 ・医学、薬学、天文学、数学 ( \_\_\_\_\_ の概念発見)  
 \_\_\_\_\_ の成立……バラモン教から派生、 \_\_\_\_\_ 神・ \_\_\_\_\_ 神などの信仰  
 『 \_\_\_\_\_ 』 ……カースト制度に基づく生活指導書

→中央アジアの遊牧民**エフタル**の攻撃により混乱

(4). \_\_\_\_\_ 朝 (606-647)、 \_\_\_\_\_ 王 ( \_\_\_\_\_ )、首都カナウジ

唐僧 \_\_\_\_\_ がインド来訪、 \_\_\_\_\_ 僧院 (グプタ朝後期に創立) にて学ぶ

少し遅れて7世紀後半……唐僧 \_\_\_\_\_ もインド来訪、同僧院に学ぶ

7世紀頃~ **バクティ運動**……ヒンドゥー教の熱烈な宗教運動→仏教・ジャイナ教を攻撃

8 ~ 10 世紀は政治的分裂が続く→10世紀末からイスラム勢力の侵攻 (ガズナ朝、ゴール朝)

※南インドは別の文化圏……タミル語、ドラヴィダ人、「海の道」での交易。**チョーラ朝** (BC.3c ~ AD.13c)